子どもの森通信

第 14 号

2017 年 6 月発行

子どもの森通信 14 号　The kodomonomori Environmental preservation Non Profit Organezation

四季をまるごと体験 eco スクール ……２～５
子どもの森が取り組む豊かな森づくり活動 …７
森の学舎 ……11
水辺の環境づくり ……６～７
環境プログラム ……８～９
２９年度活動予定 ……12

自然体験や農業体験から自然の大切さを学び、パン作りを通して環境と食を考える学習です

四季をまるごと体験ecoスクール

eco school

開校式
開校式では、学校名や学年、活動に参加した目的などを自己紹介。学舎周辺の身近な自然に触れるためのネイチャーゲーム〈カモフラジュ〉〈フィールドビンゴ〉を実施しました。

麦刈り
前年度 eco スクール生が、種まきして育った麦を稲鎌で刈りとっていきました。刈った麦は、穂を揃えて束ねていき、はさ掛けしていきました。

1 2016. 5. 22

開講式／ネイチャーゲーム／麦刈り

私たちの住んでいる地域の環境は、ここ 40、50 年で激的な変化が起こっています。山は切り開かれ宅地造成が進んで、子どもたちのすぐ近くの遊び場であった里山がなくなりました。水遊びができた川や海は遊泳ができないほど汚れてしまいました。
eco スクールでは、地域の小学生とその保護者を対象に、四季を通した自然体験や農業体験から自然の大切さを理解し、将来の自然環境の守り手に育ってもらえるような環境教室を開催しています。

麦の脱穀
足踏む式脱穀機と千羽すきを使って、前回の活動で刈りとった麦の脱穀作業をおこないました。初めは、逆回転させたりと上手く回せなかった脱穀機もすぐにコツをつかんで素早く作業を行っていました。

風選
脱穀した麦は、もみ擦り後、唐箕（とうみ）を使って脱ふんしていきます。脱ふんした麦は、6.3 キロでした。２月に石臼で挽き小麦粉としていきます。

2 2016. 5. 29

麦の脱穀／ダンボールコンポスト作り

子どもの森では、足踏み脱穀機２台を使っています。
昭和 20 年代の脱穀機は、シロアリで傷んだ木枠２本と踏板を交換。昭和初期の脱穀機は、木枠は１本しか使えず木枠全てを作り直し、ボルト類も交換しました。
ダンボールコンポストは、段ボールにピートモス等の基材を入れ、ゴミの減量化と堆肥としての食べ物の循環、堆肥の作り方管理を学びました。スクール生が家庭で使用し、出来上がった堆肥は、11 月の麦畑に利用します。

第６期生　　2016年5月～2017年3月

四季をまるごと体験ecoスクール

eco school

イカダ作り１
今回は、初めてコンパネを使用してのイカダ作りとなりました。竹と浮力のペットボトルを取り付けるための穴をあけていきます。まずは、設計図したがって印をつけていきました。

イカダ作り２
インパクトを使って穴を開け、コンパネに思い思いの絵を描いていきました。浮力のペットボトル、最後に竹を取り付けて完成しました。次回のイカダ下りが待ち遠しいです。

3　2016. 7. 10

イカダ作り

竹、コンパネ、ペットボトルを使いイカダ作りをおこないました。イカダは、次回の川を下りながらの清掃活動で使用します。
材料の竹は、森づくり活動（竹林の整備）で伐採した竹を利用しています。
イカダ作りの途中に、１回目の活動で収穫した麦わらの細断作業を行いました。
麦わらは朽ちるのに時間がかかるので、防草材として利用するため、わら切りカッターで細断しました。

イカダ下り１
下流に向かって出発です。親子で乗船しても大丈夫なイカダ。
ゴミ拾いもしっかり行いながらイカダ下りを楽しみました。

イカダ下り２
イカダ上り！？？今回は、川の水量が少ないため上流に向かって帰ることにしてみました。中学２年生になった４期生（2014年）が、スタッフ参加してくれました。

4　2016. 8. 11

竹イカダで五十鈴川の清掃活動／川の生き物調査

森の学舎の前を流れている五十鈴川で、前回作ったイカダを使って川側からでないと撤去できない川岸のゴミひろいを行っていきました。
午後からは、川の生き物を調べと観察。多くの種の命の大切さを学び、豊かな自然環境が、動植物の食物連鎖や生態系に必要なものであることを学びました。集めたごみは、仕分けしていきます。イカダは、分解してペットボトル、コンパネは、再利用。竹は、粉砕機で細かくして麦畑の肥料としていきます。

四季をまるごと体験ecoスクール
eco school

塩作り
雨のためテントを張って簡易釜戸をセッティングしました。さらし布で海水の不純物を取り除き、強火で海水を蒸発させていきます。湿気で、火をおこすのに時間がかかってしまいました。

塩作り
水分が減って塩の結晶が現れたら、ろ過して塩を採取。フィルタに残るのが塩で、カップにはニガリが流れ落ちます。最後は、塩の水分をとばすために鍋で乾煎りしていきます。

5
2016. 10. 16
海水で塩をつくろう

パン作りで使用するための塩作りです。海水は、門川漁港から船で約８キロの日向灘沖にて汲んだものを使用しました。３グループに分かれ、簡易釜戸で 10 リッターの海水を沸かして水分を蒸発させて塩を採取しました。30 リッターの海水から採取した塩は、586ｇで、他にニガリ（318cc）も採取しました。家庭ごとに 50ｇの塩とニガリを持ち帰りました。
空き時間を利用して、ネイチャーゲーム〈動物ヒントリレー〉も行ないました。

畑作り
最初に畑の草取りを行いきました。麦種を蒔く準備として、クワと耕うん機で耕うん作業。耕うん機は、スクール生が交代で体験していきました。

たね蒔き
麦蒔き目安のロープを張り、麦種を蒔き被土していきます。
種蒔きから一週間ほどでムギの芽がでてきました。

6
2016. 11. 20
小麦畑作り／たね蒔き

麦畑作りと種蒔き作業です。石灰、竹チップ、５月に学習したダンボールコンポストの堆肥を畑に撒き耕うんしていきました。
この麦は、来年度の eco スクール生（７期生）が収穫し、パン作りに使用していきます。小麦畑は、田んぼを持ち主さんが畑としていたのですが、11 年前に休耕地なった所です。川に下りられる通路も兼ねている土地を有効活用したくお借りしています。最初の年の畑作りは、竹やノイバラが茂り、大変な作業でした。現在は、草取り作業もずいぶんと楽になりました。

四季をまるごと体験ecoスクール
eco school

小麦挽き
子どもたちは、体全身使って臼を回しています。大人でも大変な作業ですが、最後までがんばって小麦にしていきました。

環境学習
環境学習のタイトルは、「なんでもマイレージ」です。大豆の自給率と大豆を使った食品について考えました。

7

2017. 2. 19

石臼で小麦を挽こう／環境学習

第１回で刈り取り、第２回で脱穀した小麦を、３台の石臼を使って挽き小麦粉をつくりました。
食品や食材を外国から輸入する時に使用されるエネルギーと二酸化炭素発生量についてのワークショック型学習を行いました。
環境学習タイトルは「なんでもマイレージ」です。大豆の自給率と大豆を使った食品を考えます。

パン作り
３グループに分かれての作業です。石臼で挽いた小麦粉と海水から採取した塩、スタッフが作っていたイチゴ酵母で、パン生地をつくり１次発酵後、パンの形にして２次発酵と進めました。

パン焼き
各グループの窯に火を入れ約１時間窯を熱くして、熾火を窯の中に残して、２回のパン焼きをおこないました。今回は、耐火煉瓦で簡易石窯も作ったので、各グループに一個ずつ窯を担当してもらいました。

8

2017. 3. 5

石窯でパンをやこう／文集作り／閉校式

まず、バターづくりから行いました。牛乳 50cc と生クリーム 50cc をひたすらシェイクし 20 分程で、パン生地に練りこむバターが完成しました。
今までの活動で作って来た材料を混ぜあわせパン生地を作っていきました。発酵時間を利用して、１年間のエコスクールでの体験を通して学んだことや感想を書きました。
そして、発酵したパン生地を成形して石窯で焼き上げました。四季をまるごと体験 eco スクール第６期生のパン作り・環境学習・文集作り・閉校式が無事終了しました。

イカダ場の水辺物語り　2017年4月～7月

森の学舎の周辺の水辺では、どんな植物や昆虫などの生き物が生息しているのだろう？そんな小さな疑問から出発して、グラウンドに水辺環境を作ることにしました。

《目的・背景となるニーズ》

親子参加による年10回程度の体験型環境学習（四季をまるごと体験ｅｃｏスクール）のプログラムの一部として、森の学舎グランドで昆虫観察を実施し、畑で麦や大豆を育てています。昆虫観察（陸上の生物観察）と並行して水辺の生物観察と、麦と並行して米を育てることを体験型環境学習に取り入れたいと思います。水辺の自然境を学習すること、麦以外の穀物を育てることで、環境学習に厚みを持たせます。そのためのビオトープ作りとその情報発信です。

森の学舎グランドの一部に、ミニ田んぼ、水路、池とつながった一連の水辺環境を制作します。森の学舎隣の地区の集会場にある水タンク（地区の集会場の水タンクには、谷沢の水を注いでいます）からオーバーフローしている水をグランドに作ったビオトープにホースで引きます。

《池と田んぼづくり》

先ずは、グランドに池と田んぼの穴を掘っていきました。手掘りでの作業を計画いていたのですが、作業日数も限られていこともあり、ショベルカーをレンタルし穴掘り作業を進めていきました。

池や田んぼを掘削してでた土の山を平らに整地し、初めてのショベルカーの操作に苦戦しながら2日間をかけて池と田んぼを掘削しました。

《自然の復元力にゆだねる》

ビオトープのミニ田んぼには、米苗を植えることになりますが、他は人工的に草や虫・魚を持ってこず自然の復元力に委ねます。

事務局で育てた10ｃｍに成長した古代米の苗を、ミニ田んぼへ植えました。４ｍ強×３ｍ強の広さのミニ田んぼに、10×15筋で植えていきました。これから、どのように成長していくかを観察していきます。

《生き物たちが集まる》

池と田んぼに水を入れるとすぐにトンボ、アメンボがやってきました。一日かけて水をためると翌朝にはアメンボが６匹に増えています。シオカラトンボは、早速産卵にやってきました。６月には、ホタルがやって来ました。ヒメボタルとヘイケボタルの２種類を確認することができました。

他に落ち葉を堆肥にするための落ち葉置き場を、ミニ田んぼの近くに配置しました。

スコップで穴掘り

タコで固めて形を整えていきます

ショベルカーを使って掘削（１日目）

池に水を貯めました

細かい所は、スコップで

ショベルカーを使って掘削(２日目)

田んぼと池を繋ぐ用水路も作成

池の周りに土手を作ってみました

幼児さんもスコップでお手伝い

古代米を植えました

田んぼの土手づくり

田んぼ地直し

＊ビオトープにやって来た生き物たち＊

オオシオカラトンボ

シオカラトンボを立派にしたようなトンボ。シオカラトンボは、腰から下が急に細くなっているが、本種は尾の先までほぼ同じ太さ。オスは濃いめの水色で、メスはくすんだ黄色。

セスジイトトンボ

淡青色(オス)または黄緑色(メス)で、黒色の条斑がある。胸部肩の黒条に淡色線がある複眼の後ろの紋は大きな三角形または花弁状。平地～丘陵地の、水草の多い池沼や流れの緩やかな川で見られる。

ヒメアメンボ

池、水田、水たまりなど、いたるところで見られる小さなアメンボ。脚に毛がはえていて水をはじき、表面張力を利用して水に浮く。水面に落ちる昆虫をすばやく集まってきて体液を吸ってしまう。

アメンボ

実はカメムシの仲間。体に飴のような甘いにおいがあるのでこの名がついた。水面に落下した小昆虫などの体液を吸う。長距離を飛んで移動することもある。

ゲンゴロウ

ゲンゴロウの成虫の大きさは、オスは、約35-40mm、メスは、約36-43mm。外観は平べったい卵型で、水中活動に特化・発達した大きな後足には遊泳毛と呼ばれる水掻き状の毛が生えている。

アマガエル

黄緑色～灰褐色で、鼻先から鼓膜にかけて黒帯があるずんぐりしたカエル。体表は滑らか。周囲の環境によって、体色を変えることができる。平地、山地、草原や林縁、水田、市街地、家の庭先などでも見られる。

ヌマガエル

灰褐色～暗灰色で、褐色の斑紋がある。ツチガエルに似るが、イボ状突起の隆起が弱く、腹面は白い池、沼、水田などの周辺の地表で広く見られる。

トノサマガエル

灰褐色～緑色で、全身に黒褐色の斑紋がある。背中に緑色～白色の筋があることが多い。平地、低山地に広く分布し、水田や池、沼などで見られる冬は地中で冬眠し春から秋まで活動します。

川をたのしく親しもう 2016年7月31日

参加者：大人12人子ども14人（内幼児4人）　スタッフ：7人
ネイチャーゲーム指導：はちかんシェアリングネイチャーの会：3人
ミニコンサート：あかとんぼ（
取材：MRTラジオ　エ・コ・コロカフェ（木佐貫ひとみさん）

近年は、身近な自然環境に触れる機会が無くなってきています。ネイチャーゲームで、自然をさまざまな感覚や心を通じて理解し、自然と自分が一体であることを学び、川あそびをとおして自然の豊かさを楽しみ、自然の大切さを学びます。

子どもたちとその保護者が、ネイチャーゲーム（川あそび）と川の生き物調べを通して、豊かできれいな水と、多様な水生動物に触れることで、ふだんの生活では気づくことができなかった自然の大切さを実感でき、きれいな川を守るために必要な自分ができることを考えることができ、自然を大切に守ろうと思う心の芽生えは、子どもたちの健全育成に大きな影響をあたえると考えています。

■オリエンテーション

主催者あいさつ、写真撮影と取材のお願い、活動の注意、スタッフとネイチャーゲームリーダーの紹介後、ライフジャケットの着用については、実演でしっかりと説明をしていきました。

■ネイチャーゲームと川あそび

さっそく河原に降りて行きます。ネイチャーゲーム指導は、熊本県の地域の会リーダーさんたちです。〈ジグソーストーン〉〈石の鑑定団〉〈太陽と風のフィールドビンゴ〉のネイチャーゲームを体験していきました。

川あそび（川の音を聞く・生き物をみてみよう・ササ舟流し・いき物さがし）最後にアメンボのようになって川を流れていきました。

■森のミニコンサート

今回は、素麺流しまでの時間にミニコンサートを開催しました。小林市在住のデュオ「赤とんぼ」さんの優しい歌声が森の学舎に響き渡りました。

木と遊ぼう！木に学ぼう！2016年12月4日

参加者：大人7人、子ども13人（内幼児4人）
スタッフ：3人

この体験型環境学習は、樹木の二酸化炭素吸収量学習、ドングリ苗木のポットづくり、ドングリを使った工作を通して、自然の豊かさを楽しみ自然の大切さを学びます。

■環境学習（樹木の二酸化炭素吸収量の測定）

教室で樹木の高さの測定方法と、測定する樹木の名前を確認しました。今回測定する樹木は、「センダン」「イヌマキ」「サクラ」「モチノキ」です。樹木の二酸化炭素吸収量の計算をして、人間一人が呼吸で吐き出す二酸化炭素を吸収と、家庭で使う電気を発電する際に排出される二酸化炭素を吸収するのに調べた樹木が何本必要なのかを求めます。

■炙り焼きソーセージ作り

炙り焼きソーセージと釜戸でのご飯炊きを参加者全員で行いました。

■ドングリ苗づくり

ドングリは、「シリブカガシ」「クヌギ」「マテバシイ」「イチイガシ」「ナラガシワ」の５種類です。それぞれ好きなドングリを選び２～３個を竹ポットに植えます。芽が出て２～３年経って苗木になったら森の学舎に持ってきて山へ植樹します。

■ネイチャークラフト

いろんな種類の自然素材とホットボンドを使って思い思いの作品を作っていきました。

朝から降り出した雨が強いためプログラムの順番を入れ替え。ドングリ苗づくり、工作を午前中に実施したことと、今回は幼児さんの参加が多いためお昼作りに時間がかかってしまい予定より遅い昼食となりました。

午後からは雨も上がり、メインの環境学習も無事終ることができました。

春をたのしもう　2017年３月26日

参加者：大人 11 人　子ども 11 人（内幼児４人）　スタッフ：５人
野草講師：成迫 平五郎氏（宮崎県環境アドバイザー・県北植物愛好会）

「野草の名前を覚え、自然の恵みに感謝し、春を楽しみましょう。野草は食べる分だけ摘みましょう」と横山理事長のあいさつから、今日の活動がはじまりました。その後、成迫平五郎さんによる野草の話、事務局からの注意と連絡事項があり、集合記念写真後、野草探しに出発しました。

成迫さんの案内で、森の学舎の周辺で食べられる野草を探し紹介していきます。参加者は、野草を食べきることができる量を収穫していきます。

収穫した野草は、種類ごと分け、その後、野草を洗い料理毎に仕分けします。今回の料理は、かき揚げ、あえ物、餃子、ピザの４種類を作っていきます。他に、釜戸での羽釜炊飯をしました。

参加者（大人の参加者中心）で、各々好きな役割に分かれて調理を開始しました。
ヨメナは、塩もみしてご飯にまぜこみ、ノビルとヤブカンゾウはあえ物、ツクシは炒め物、他野草は、かき揚げ・餃子・ピザに使用しました。子どもたちは、餃子作りとピザ作りを手伝ってくれました。

摘んだ野草たち
スイバ、レンゲソウ、カラスノエンドウ、ツクシ、セリ、スズメノエンドウ、ノビル、ヨモギ、ヨメナ、ヤブカンゾウ、フキ、ハコベ、セイタカワダチソウ、コオニタビラコ、タネツケバナ、ナズナ、アザミ、オオバコ、ウバユリ（球根）、（おまけ）シイタケ　など

環境プログラム参加者の感想（一部抜粋）

■川をたのしく親しもう

・いつもいろいろ楽しませていただきありがとうございます。昨年とは、違っていたネイチャーゲームで親子ともに楽しい時間を過ごすことができました。スタッフの皆さま、お世話になりました。
・生き物調べが楽しかった。魚を捕るのが楽しかった。
・川遊びや素麺流し等、子どもたちに経験させたくてもできなかったので、貴重な経験でした。
・延岡に来て２年目で、こんなに自然遊びができる所が近くにあることを知りました。また来てみたいと思いました。今日は一日お世話になりました。
・川で生き物を探したのが楽しかったし、アメンボのように流れるのも楽しかったです。
・初めて参加したけど楽しかったです。また来たいと思います。

■森で過ごそう！森に学ぼう！

・木を大切にしていきたい、木はとても大事なものだと思う。家で、木を大切に育てたい。また、木と遊ぼう！木に学ぼう！に参加したいです。
・いろいろなことを学習できて、ドングリ工作もきれいに作れました。
・ドングリの工作が楽しかったです。ドングリの木を大きく育てたいです。
・子どもと一緒に体験でき、一緒に学べ、良い時間を過ごすことができました。自分たちで作るごはんも、とても美味しかったです。今後、キャンプなどで。今日の焙り焼きソーセージを活用したいです。自然の中でも、たくさん楽しめるなぁと感じました。
・子どもが、ドングリづくりに興味を持ちよかったです。森に学ぶ企画に参加でき、とても楽しく、良い思い出になりました。また、機会があったら参加したいです。

■春をたのしもう

・知らない事だらけだったので勉強になりました。野草にも、ヤブカンゾウのようにたくさん食べれたら立派な野菜。餃子が、色々な香りが多く、とても美味しかったです。疑問点も、先生に聞けてスッキリしました。またここでの企画に参加したいです。
・親子とも野草の収穫体験は初めてでした。狭い範囲でも食べられる野草がたくさんある事に驚きました。収穫した野草を皆で調理し食べるのは、格別な味がしました。スタッフの方々も親切で、また参加したいと思いました。羽釜ご飯に石窯ピザと本格的に調理ができ、とても満足しました。
・道端に生えている草がたべられてビックリしました。ピザ作りは楽しかったです。来年もまた参加したいです。
・いろいろな野草に会えてよかった。野草は美味しいと解りました。楽しかったです。
・山菜や野草の名前もたくさん分ったし、毒のある草も分かったのでよかった。料理するのは、とても難しかったけど、美味しくできたのでよかった。家の周りや公園、森林などで、いろいろな山菜や野草を探したいです。
・初めて野草を探しました。知らない野草もたくさんあり、とても勉強になりました。子供も楽しそうに探していて良い体験ができました。自然豊かな場所で、またこのような企画があれば参加したいです。準備してくださったスタッフさんに感謝です。子供たちにもう少し参加しやすいもの（料理）があればいいなぁと思います。
・身近にある色々な野草が食べられる事を知りました。子供たちもとても楽しそうに野草取りをしていました。収穫した野草の料理は、とても美味しかったです。とてもいい体験ができてよかったです。小さい子供がおなかが空きすぎて大変でした。料理の準備がもう少し短時間でできれば良いなぁと思いました。

＊環境プログラム＊
これからの時代を担う子どもたちに、良質な自然環境を残すためには、体験型の環境教育は、重要なかぎとなるはずです。森の中等での自然体験活動にこだわり、楽しみながら遊びながら、結果よりプロセスを重視して、環境について考えてもらう工夫をした催しを開催しています。

子どもの森が取り組む豊かな森づくり活動

森林づくり
自然を守りしっかり育てる

◆子どもの森一号地
◆GOCAN(五感)の森
◆妖精の森

◆子どもの森1号地

２００４年から取り組んでいる地球温暖化防止と荒れた森林の保全を目的として、杉間伐地の私有地に広葉樹を植樹、杉と広葉樹の複層林となっています。

◆妖精の森

手入れがされず放置されている竹林を、子どもが入り遊ぶことができる広葉樹の林に再生し、人や動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能の維持増進を図るために、平成21年度から継続して竹の伐採を続けています。

伐採竹は、粉砕機でチップにして堆肥作りを兼ねて森の学舎グランドの一部に散布しました。また、伐採した竹で棚を作り、棚に倒竹や竹笹部分等を積んでいます。その他に、「四季をまるごと体験ｅｃｏスクール」の竹イカダ、「川をたのしく親しもう」の素麺流しに利用。一昨年度から販売している竹炭・竹チップ・竹パウダーにも伐採した竹を活用しています。

◆GOCAN(五感)の森

２００６年から台風で植林された杉が流された門川高等学校演習林の自然環境の復元を図り、水源の涵養や災害防止など森林の公益的機能の再生のため植樹、整備を行っています。

伐採した竹は、販売様に加工します。炭焼き窯で「竹炭」。粉砕機では、「竹チップ」「竹粉」にしています。売上金は、森づくりのために活用されます。

2016年
4月29日

総会＆お楽しみ会
～筍・摘み草を食べよう～

子どもの森の28年度活動方針を決めるための第16回通常総会を開催しました。

総会終了後は、お楽しみ昼食会を開催。野草摘み、竹林整備を兼ねたタケノコ掘りも行いました。

メニューは、釜戸炊飯、タケノコは天ぷら。野草は、かき揚げ＆餃子です。参加者全員で調理していきました。

◆取　材・出　演◆

わいＷａｉＴＶ　２０１６年５月25日放送
四季をまるごと体験ｅｃｏスクール

ＭＲＴラジオ「エ・コ・コロ カフェ」８月20日放送
川をたのしく親しもう

九州ろうきん広報誌『夢ろうきん』11・12月号
「九州ＮＰＯ白書」に掲載

ＭＲＴラジオ バリッと！朝「ボランティアワールド」
２０１７年１月31日横山理事が電話出演

小麦について　シリーズ 6

イネとムギは兄弟姉妹

イネとムギは、おなじイネ科。だからとてもよく似たところもあれば、まったく正反対のところもある。葉や花のかたち、茎のふえかたなんかはとてもよく似ている。でもイネは水がすきで、熱帯が原産の植物だ。それとは逆に、ムギは、乾燥した土とさむい気候が大好きだ。日本の気候は、夏にイネ、冬はムギをつくるのにちょうどよかったので、水田では、むかしからこの2つの作物を交互に作っていたんだ。これを二毛作というんだけれど、二毛作は日本の気候を生かした、日本ならではのやりかたです。

二毛作について

むかしは、畑でムギをつくることのほうが多かったけれど、今ではイネを刈りとったあとの水田にムギを植えることが多いんだよ。のこったムギワラを堆肥にすると、田や畑のいい肥料になります。

根のつくりのちがい

ムギの根には空気を通す管がないが、イネにはあって、葉や茎を通って、空気が根におくられる。そのためにイネは水の中でも育ちます。逆に、ムギは湿気の多い土をきらう。

農文協：全の絵本より

学舎の開放

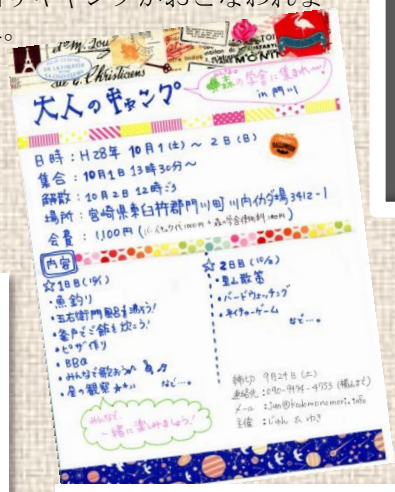
門川町教育振興研究会
2016 年 11 月 14 日

門川町教育振興研修会による特別支援学級の遠足が行なわれました。

カレー＆サラダづくり、どんぐり工作、ゲーム、森の散策などで、自然にふれながら共に活動する事を通して親睦をはかることを目的にした活動です。子どもの森は、活動のサポートを行いました。

大人のキャンプ
2016 年 10 月 1 日～2 日
主催：熊本在住・じゅん＆ゆき

子どもの森の活動へ参加協力している方々６人＋ワンちゃんのお泊りキャンプがおこなわれました。



もりのまなびや

森の学舎

旧西門川小学校松瀬分校を活用している森の学舎。環境プログラムの開催と環境文庫の常設をしています。また、団体への施設開放、自然体験活動の受け入れもおこなっています。

topics

草刈り作業
2016 年 6 月 25 日～26 日
10 月 29 日～30 日

４名の会員で、森の学舎のグランドの草刈りを行いました。雨天と参加者不足のため終了せず、来週も実施します。
初夏に引き続き今年２回目のグランドの草刈です。草が伸び放題だとイノシシが遊びにやってくるので、グランドをやぶ状態にしてはダメです。それと、災害等緊急時に備えて購入したテントの試張りをして寝泊りしました。

GW 森の学舎整備
2016 年 4 月 30 日/5 月 4 日～7 日

今年のGWも、森の学舎の整備等を行ないました。今年のGWは、延べ８人が森の学舎に来てくれました。
① 管理棟のタイル製流しの交換
② 溝ふたとほうき入れの作成
③ 渡りタキロンの修理
④ ｅｃｏスクール麦畑のカラスノエンドウ他の除去

2016年度活動への助成・寄附等の報告

＊国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」
川をたのしく親しもう／木と遊ぼう！木に学ぼう！
春をたのしもう

＊門川町がんばる地域応援事業
四季をまるごと体験ｅｃｏスクール

＊全労済「地域貢献助成」
身近な水辺環境づくりと情報発信

＊イオン黄色いレシート
イオン各店での黄色いレシートキャンペーン箱に投函されたレシート金額の１％相当額の物品が活動全般に寄贈されます。

＊ろうきんＮＰＯ寄付（九州労働金庫）
労働金庫の預金者の方が応援したいＮＰＯ法人へ、希望する金額を、希望する日に、預金者に代わって預金口座から寄付団体の口座に自動振替する制度です。１回の寄付額は、１００円以上（１００円単位）です。お二人の方から寄付がありました。

＊プルデンシャル生命保険株式会社による寄附

＊個人による寄附

ありがとうございました

＊そうだ、ボランティアしたい。と思った方へ＊

子どもの森は、ボランティアの手で支えられています。
なかまが増えれば、もっと多くの充実した活動ができます。あなたの持っている力を、子どもの森の活動に活かしてみませんか。

■正会員になると
総会等へ議決権を持って参加し意見を述べ、子どもの森の活動に反映させていきます。理事等に立候補でき、総会で承認されれば、子どもの森の運営に、直接たずさわることができます。
年会費５，０００円

2017年度活動予定

月	予定/実施日	活動名	場所
4	２２(土)	ビオドープ作り	森の学舎
	２３(日)	ビオドープ作り	森の学舎
	２９(金)祝	通常総会　／ビオドープ作り	森の学舎
5	4/30～5/6	森の学舎整備	森の学舎
	１４(日)	ｅｃｏスクール「開校、ネイチャーゲーム、麦刈り」	森の学舎
	２０(土)	ビオドープ作り	森の学舎
	２８(日)	ｅｃｏスクール「脱穀作業」	森の学舎
6	３(日)	ｅｃｏスクール用「海水汲み」	日向灘沖
	４(土)	森の学舎整備「草刈り」	森の学舎
	１１(日)	森の学舎整備「草刈り」	森の学舎
	１８(日)	みやざき森づくりボランティア協議会総会	宮崎市高岡
	２５(日)	ｅｃｏスクール「海水づくり」	森の学舎
7	8(土)～9(日)	ｅｃｏスクール準備	森の学舎
	１６(日)	ｅｃｏスクール「イカダづくり」	森の学舎
	２２(土)	川をたのしく親しもう準備	森の学舎
	２３(日)	川をたのしく親しもう「ネイチャーゲーム、素麺流し」	五十鈴川
	３１(日)	川をたのしく親しもう（23日中止の場合	五十鈴川
8	5日(日)6(土)	ｅｃｏスクール準備	森の学舎
	１１(金)祝	ｅｃｏスクール「イカダで川の清掃活動」	五十鈴川
9	１８(月)祝	ｅｃｏスクール「大豆の収穫」	森の学舎
	２４(日)	ｅｃｏスクール「どんぐりクッキー作り・大豆脱豆作業」	森の学舎
10	１５(日)	ｅｃｏスクール「昆虫観察・豆腐づくり」	森の学舎
	２２(日)	森の学舎整備「草刈り」	森の学舎
	２９(日)	竹林整備	妖精の森
11	５(日)	ｅｃｏスクール準備	森の学舎
	１２(日)	ｅｃｏスクール「畑づくり、麦の種蒔き」	森の学舎
	２６(日)	木と遊ぼう木に学ぼう準備	森の学舎
12	３(日)	木と遊ぼう木に学ぼう「樹木の学習、ドングリ苗づくり、ネイチャークラフト」	森の学舎
1	１４(日)	ｅｃｏスクール「牧場体験」	森の学舎
2	１８(日)	ｅｃｏスクール「石臼で小麦挽き・イチゴ狩り・酵母作り	森の学舎
3	４(日)	ｅｃｏスクール「パン作り・文集作り閉校式」	森の学舎
	２４(土)	春の野草を楽しもう準備	森の学舎
	２５(日)	春の野草を楽しもう「野草収穫・料理」	森の学舎
4	２２(日)	通常総会	森の学舎

編集後記

子どもの森事務局担当理事は、平成26年4月から熊本県に住んでいます。週末の活動のために金曜日の夜に、R57号線～阿蘇大橋を経由し2時間かけて移動していました。ところが、平成28年4月の熊本地震で、崩壊し通行不能となったしまった阿蘇大橋。震度6の揺れとそれから続く余震に恐怖と不安で、子どもの森の活動をどうしようかと迷いました。しかし、理事長と震災ボランティアをしながら子どもの森の活動も行うことを決心。会員たちもそれぞれができる災害ボランティアをしながら子どもの森の活動に参加。私たちができることは限られていますが、今年度も活動をがんばっていきます。

純

梅檀（センダン）
【属名】センダン科センダン属
【樹形】落葉高木
【分布】本州・関東以西、四国、九州、沖縄。
暖地の海岸地域に多く自生する。5～6月に葉腋から集散花序をだし、2cm程の芳香のある淡紫色の花を多数つける。雄しべが雌しべの周りに筒状につきよく目立つ。葉は互生、2～3回奇数羽状複葉、小葉は3～6cmの卵形から楕円形、先は尖り、縁に鈍い鋸歯がある。10月に果実が黄色に熟す。

表紙写真

平成29年5月撮影（門川町）

子どもの森通信　第14号
発行・編集：特定非営利活動法人子どもの森広報委員会　〒889-0604 宮崎県東臼杵郡門川町大字川内字イカダ場3412番地1
TEL：0982-95-7800　FAX：0982-63-0009　Mail:office09@kodomonomori.info
http://www.kodomonomori.info　facebook　https://facebook.com/npo.kodomonomori